

Rainbow Fellows Nagano

令和2年松本市長選挙 立候補者宛

性的少数者に関する施策に関する公開質問状の回答一覧（最終版）

（回答到着順に掲載）

1 松本市内の児童生徒に関する施策について

（1）平成27年に文部科学省が発した、「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細かな対応の実施等について」（平成27年4月30日，27文科初児生第3号）を知っていますか。

<ご参考>

大月良則さん

（1）確認いたしました。

（2）支援体制の整備や学校生活の各場面での支援等について、松本市内の学校でも適切に実施する必要があると考えています。具体的には、インクルーシブな教育環境の整備（必要な児童、生徒には看護師、支援員の配置）を検討します。

花村恵子さん

（1）知っています。

（2）

- 教職員の適切な理解を高める研修：まず校長、教頭、生徒指導担当者、養護教諭を対象に行い、展開を広げる
- 学校医やスクールカウンセラーの充実：市として、各学校をサポートできる体制を整備。
- 公立中学校の制服は、性別にかかわらずスラックス・スカートを選択できるように
- 性の多様性と人権教育を含めた授業(プログラム)を全中学校で実施（→保健、社会、技術家庭科などとの強化連携のうえで進める必要がある）
- 学校を通じて、子供や親御さんへのSOGI/LGBTへの適切な理解をもっといただけるように学校への働きかけ

百瀬智之さん

（1）知っています。

(2) 相談窓口の充実強化や多様性理解の講演会、学習講座の推進などを考えています。

上條邦樹さん

(1) 知っていた、とても関心があり注目していました。

(2) 市長が前面に出て積極的な施策を実施する。

LGBTQ+に配慮したトイレの設置を進める。

次に男女別のトイレを段階的に廃止して個室化し、第三者の目が気にならないようトイレに入るのに誰もが躊躇せずに入れるようにします。

服装髪型をすべて自由にする。

LGBTQ+をカミングアウトしている教員や有識者等を学校に配置する。

公の場所での男女別、性別、すべての区別と差別を廃止する。

臥雲義尚さん

(1) 知っている。

(2) ある。一人ひとりが豊かさを追求できる松本を目指す上で、性同一性障害および性的マイノリティとされる児童・生徒が、誰に気兼ねすることなく、学校生活・日常生活を送れる環境づくりは重要と考える。

教育委員会やPTA、医療機関、専門家とも連携した上で、相談窓口の整備や学校設備への配慮、無理解や差別解消のための啓発等、必要な施策を進めていきたい。

米田龍二さん

(1) どこかで目にした記憶はあります。

(2) 施策はとるべきと考えますが、個々の事情には予断を許さない切実な対応が必定と思われるので専門家でない私の論評は適当ではありません。

2 各種書類の性別欄や性別表記について

(1) 松本市に作成権限のある各種の申請書類、証明書類等について、必要性の乏しい性別欄や性別表記を廃止するお考えはありますか。

(2) (1) で廃止するお考えがない場合、その理由は何ですか。

大月良則さん

(1) 松本市に作成権限のある各種資料について、性別欄や性別標記だけでなく、必要性の乏しい記入欄は廃止をします。

花村恵子さん

(1) あります。着任後、即時に着手します。

百瀬智之さん

(1) 書類の性質などを考慮しながら個別具体的に判断して参ります。

上條邦樹さん

(1) 早急に廃止する

臥雲義尚さん

(1) 性別標記への記入を強制することには問題があると考えます。必要性の乏しい性別欄や性別標記がどのようなものか検討したい。

米田龍二さん

(1) あります。そもそも、「令和」標記は限られた分野のみで一般に公文書は西暦標記にすべきと考える者です(明治維新史学会所属)

3 松本市でのパートナーシップ制度について

(1) 松本市において、いわゆる自治体パートナーシップ制度（ここでは、2人の成人の申出に基づいて、両者の法的性別が異性であるか同性であるかを問わず、両者が婚姻相当の関係であることを証明する旨の市長名の文書を発行する制度等をいいます）を導入するお考えはありますか。

(2) (1) で導入するお考えがない場合、その理由は何ですか。

大月良則さん

(1) 導入について検討します。導入を検討することで、市民全体で、性的少

数者の方の社会的な孤立の防止や地域の方に性的少数者の方を理解していただくきっかけにしたいと考えます。

花村恵子さん

(1) あります。速やかな実施に向けて着手します。

百瀬智之さん

(1) 導入を前向きに検討したいと思っています。

上條邦樹さん

(1) どんなに困難な問題があっても解決して早急に導入する。

臥雲義尚さん

(1) ある。マニフェストに掲げている通り、「同性パートナーシップ証明制度」を導入するなどして、多様な生き方を尊重する差別のない都市を目指したい。

米田龍二さん

(1) 導入すべきと思います。この問題は意外にも渋谷区が先行していたのでは？当時、文京区にいて支援していた女性区議と話し合った記憶があります。

<p>4 性的少数者の差別状態の解消や尊厳の回復に向け、その他に検討されていることがあれば、自由に記してください。</p>

大月良則さん

今後建設していく公共施設、現存の公共施設においても、性的少数者に配慮した更衣室やトイレの利用に関するルールの検討をします。

花村恵子さん

- 市のすべての公衆トイレに「だれでもトイレ」併設を目指す
- 既存の松本市の相談窓口(パレア松本)体制を拡充：SOGI/LGBT全般に、

かつ、どんな市民からの相談（例えば、学校や教職員、子供、親御さんなど）を受け付ける、プライバシーの守られた相談窓口として市として整備に努める

- 松本市としてAllyマークを公募で作成
- 市民向けにSOGIの啓発の機会を作る（外部有識者や、LBGTをカミングアウトされている方を招聘してご自身の体験やストーリーをお話しいただくなど）
- 長期的には、Rainbow Prideイベントを松本で開催することも一案

※参考リンク：

Ally（アライ） (<https://allabout.co.jp/gm/gc/463546/>)

「アライ」とは、LBGTを含むセクシュアルマイノリティーを理解しようとする姿勢を持ち、自分にできることを考えて行動する、LBGT支援者のこと。

Allyマーク

(https://www.google.com/search?q=Ally%E3%83%9E%E3%83%BC%E3%82%AF&safe=active&rlz=1C1GGRV_en_815&sxsrf=ALeKk03IxULaIrAaF47mYZcs7WUpuvMxoQ:1582443451358&source=lnms&tbm=isch&sa=X&ved=2ahUKEwjahK6elefnAhWOvZQKHdJVAYoQ_AUoAXoECAwQAw&biw=1366&bih=657)

百瀬智之さん

「環境先進都市・松本」は偏見や差別のない、自由な雰囲気にも満ちた都市像を目指しています。

上條邦樹さん

プライド(レインボー)パレードを松本市内で行政協力のもと実施する。

LBGTQ+などの多様性を認め合う社会の推進のために、子どものころからの気づきの学習教育を行う。

臥雲義尚さん

性同一性障害および性的マイノリティとされる方々の生きづらさや直面している課題を解決することは、多様な生き方を尊重する差別のない都市を目指す上で必要な事と考える。相談窓口の横の連携強化や正しい理解を広めるための啓発など、自治体としてできる施策を講じていきたい。

米田龍二さん

もう20年も前、鳥取市のある小学校の父母会の勉強会で被差別解消がテーマになり、「こういう時代になったか」と感懐をおぼえたことがあります。（島崎藤村著「破壊」の主人公丑松のモデルになった人が、結局、丹波柏原（かいばら）へ逃れてきた経緯を知った）。『時がたてば……』治るという考えでなく、積極的に会合をセットすべきという流れだった。

5 国の婚姻制度について

国の制度の問題ですがご見解をうかがいます。現行法の婚姻制度においては、当事者の法的性別が異性同士でなければ、婚姻をすることができません。

- (1) 同性同士の婚姻の法制化に賛成ですか。反対ですか。
- (2) (1) その理由は何ですか。

大月良則さん

現時点で、国民的な議論が深まっておらず、合意もできていないことから法制化は難しいと考えます。

花村恵子さん

- (1) 同性同士の婚姻を法的にも認めることには賛成です。
- (2) 一人ひとり大切なものや価値観が異なることは当然です。

私が、「つながる つなげる」の言葉で目指す「多様な人たちがともに暮らすまち・松本」のイメージは、多様性（目に見える・見えないに関わらず、多様に異なりさまざまな特徴を持つ人たちから成り立っている状態）を受け入れ、その社会や組織のすべての人が本来の自分らしさや個性を保ちながら、イキイキと持てる力を発揮することで、貢献し、成長し、活躍できると自ら"感じられる"ことです。SOGIも多様性の一つの要素だと考えています。婚姻制度を異性同士にこだわり続ける理由がありません。現在の社会のしくみが異性同士の婚姻に適したようになっている、というご指摘もありますが、人の価値観は様々であり、それは尊重されるべきもので、それを無視して既存の社会の仕組みの存続を優先することは無いと考えます。この時代、異性同士の婚姻だけに固執し続けることはなく、違いをリスペクトしながら既存のやり方を変えていくことが大事ではないでしょうか。実際、オランダ、英国、ドイツ、カナダなど、

世界の20%もの国や地域で同性婚やパートナーシップが認められています。

人は一人ひとり、それぞれ違うもの。誰もが本来の自分らしさを保ったまま、イキイキと持てる力を発揮できるまちを目指します。

百瀬智之さん

国の制度については国会での議論に判断を委ねたいと考えます。

上條邦樹さん

(1) 大賛成

(2) 法的性別はすでに形骸化しており事実上の意味をなしていないことから、

戸籍上の性別の異性同士の婚姻のみしか認められていない現状は憲法違反であると考えます。

臥雲義尚さん

(1) 法制化には慎重。

(2) 多様な生き方は尊重されるべき。一方で様々な論点が内包されている。

米田龍二さん

(1) 賛成です。

(2) こと、ここに至れば〈逆流〉は考えにくい。ただその後の〈相続〉問題など、派生する諸問題を事前に整理・整頓しておくべきと思います。